

[ホーム](#) > [組織でさがす](#) > [埋蔵文化財調査センター](#) > 平成29年度 活動報告

平成29年度 活動報告

掲載日:2018年3月5日更新

平成29年度の普及・公開事業

埋蔵文化財調査センターの発掘調査以外の様々な活動について、随時報告しています。

弥富市文化協会史料部の方々が施設見学に訪れました。

2月24日(土曜日)、弥富市文化協会史料部の20名の方々が施設見学のために愛知県埋蔵文化財調査センターを訪れました。

埋蔵文化財調査センターの業務について簡単な説明を行った後に、埋蔵文化財調査センターの施設を見学しました。1階では収蔵庫Eに保管してある室(むろ)遺跡の木樋(もくひ)の大きさに驚き、2階では特別収蔵庫に収納されている多種多様な木製品に感心し、3階の収蔵庫Dでは1万箱を超える遺物が収納されていることに驚いていました。

施設見学の後は遺跡から出土した遺物に触れてもらいました。今回、準備したのは戦国時代から江戸時代にかけて出土遺物です。清洲城下町(きよすじょうかまち)遺跡、名古屋城三の丸(なごやじょうさんのまる)遺跡などから出土した陶磁器類を並べ、土器、陶器、磁器の違いやその出現について解説しました。参加された方々は天目(てんもく)茶碗や志野(しの)の向付(むこうづけ)などを手に取り、約400年前の茶陶の感触を肌で体感していました。



出土遺物に触れる

当センターでは歴史サークルなどの施設見学を受け付けています。ご希望の方は下記の連絡先に御一報をください。

連絡先 愛知県埋蔵文化財調査センター 調査研究課
担当: 鶴飼・岡田 電話 0567-67-4164

室遺跡:西尾市に所在。国道23号岡崎バイパスの建設に伴い発掘調査が実施された。古代から中世にかけての遺跡で、木製の側溝である古代の大型木樋が出土した。

清洲城下町遺跡:清須市に所在。清須城を中核とした戦国時代から江戸時代初めにかけての城下町の遺跡。江戸時代初め以降、その一角は美濃街道の宿場町となった。

名古屋城三の丸遺跡:名古屋市に所在し、名古屋城周辺に広がる。江戸時代は尾張藩の上級家臣団の武家屋敷があった。

天目茶碗:濃い茶色や黒色の厚い釉薬(うわぐすり)がかかるとお茶のための器。

志野:不透明な白色の釉薬。この釉薬を下地に黒色の釉薬で花や草木等の文様を描くものもみられる。

向付:お茶をたしなむ際に、茶菓子などを入れるための鉢。

平成29年度下山発掘調査報告会を行いました

調査研究課の岡田です。

平成30年2月24日(土曜日)に豊田市下山交流館で**平成29年度下山発掘調査報告会**を行いました。

29年度に愛知県埋蔵文化財調査センターは豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成にともない「**北野田(きたのだ)A遺跡**」「**北野田B遺跡**」「**北野田C遺跡**」「**神谷上切(かみやかみきり)遺跡**」を発掘調査しましたが、今回はその成果報告会です。報告会の内容は今年度発掘調査した各遺跡の成果の説明、今回発掘調査した遺跡の拡大パネル写真・出土遺物の展示、過去に行った豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業関連遺跡調査で出土した遺物の展示と整理作業で分かったことの発表です。

当日は地元の方、いっしょに遺跡を掘った作業員、支援業者の方などに来ていただきました。当日の天候のようにあたたかい成果報告会を行うことができました。

ちなみに周りは杉の木ばかり。杉の木は表面が茶色に染まりつつあり、花粉症のひどい私はぞっとする一日でもありました。



上左右: パワーポイントを使って、各遺跡の説明。

下左 : 29年度発掘調査出土遺物です。木製品は保護のため水に漬けたままの展示です。

下右 : 過去に調査した遺跡の出土遺物。縄文土器や石器、平安時代の灰釉陶器、土師器甕などの展示です。

豊田・岡崎下山地区の遺跡出土遺物の写真撮影が行われました

調査研究課の岡田です。

2月19日から26日まで、豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業関連遺跡の発掘調査で出土した遺物の写真撮影が行われました。発掘調査を実施した場所は豊田市・岡崎市下山地区の山間地です。

写真撮影で出土遺物を並べると「よくこのようなものが山間地から出土したなあ」と思われるものがたくさんあります。灰釉陶器(かいゆうとうき)はたくさん出土しています。また作製に手間のかかる緑釉陶器(りよくゆうとうき)も出土していますが、この陶器は当時の役所や寺院などの文化・政治の中心地でよく見られます。中世に伝わった舶来の青磁片も出土しています。また、縄文土器や石鏃などの石器もたくさん出土しており、歴史のロマンを感じさせます。

今回撮影した写真は報告書に掲載されます。下山の発掘調査成果が多くの研究者に活用されることを願っています。



灰釉陶器: [平安時代](#)に生産された、植物灰を釉薬(ゆうやく)の原料として[施釉](#)した陶器。人工で施釉した陶器の始まりである。

緑釉陶器: 中国の青磁にあこがれ、青磁の風合いを出すため酸化銅で施釉した陶器。

享栄高等学校の土曜セミナーに参加しました。

2月16日(土曜日)、享栄高等学校の土曜セミナーに参加しました。

今回のセミナーは「信長、秀吉、家康の時代に触れる」と題し、前半は主に戦国時代から江戸時代にかけての清州城下町(きよすじょうかまちいせき)遺跡、名古屋城三の丸(なごやじょうさんのまる)遺跡、石座神社(いわくらじんじゃ)遺跡等から出土した遺物を用いて講座を進めました。受講した生徒は石座神社遺跡で出土した鉄砲弾を手に取り、その重量を確かめたり、お茶の器である天目茶碗(てんもくちやわん)や志野(しの)の向付(むこうづけ)を興味深く手に取り、その感触を感じていました。

講座の後半は、拓本体験です。朝日(あさひ)遺跡から出土した弥生土器の文様を拓本で写し取ります。職員の説明を受けて生徒は拓本に挑んでいましたが、うまく文様を写し取ることに苦労していました。出来上

がった拓本は透明なフィルムでパックし葉(しおり)に加工しました。生徒たちは自分たちで作った葉を自慢げに見せ合っていました。



受講風景



出土遺物に触れる その1



出土遺物に触れる その2



拓本体験 その1



拓本体験 その2

当センターでは、出前講座を受け付けています。ご希望の方は下記に連絡をください。なお受付は平日の午前9時から午後5時までです。

連絡先 愛知県埋蔵文化財調査センター 調査研究課
Tel 0567-67-4164 担当 鶴飼・岡田

清州城下町遺跡: 清須市に所在する戦国時代から江戸時代にかけての遺跡である。清須城を中心に城下町が広がる。

名古屋城三の丸遺跡: 名古屋市に所在する。中心となる時代は戦国時代から江戸時代で、江戸時代には尾張藩の重臣クラスが住む武家屋敷が主に広がった。

石座神社遺跡: 新城市に所在する。弥生時代から古墳時代初めの遺跡であるが、天正3(1575)年、武田の騎馬隊と織田・徳川軍が戦った設楽が原(したらがはら)の戦いの合戦場と近接しており、そこで使用された火縄銃の弾が5発出土している。

天目茶碗: 濃い茶色や黒色の厚い釉薬(うわぐすり)がかかるとお茶のための器。

志野: 不透明な白色の釉薬。この釉薬を下地に黒色の釉薬で花や草木等の文様を描くものもみられる。

向付: お茶をたしなむ際に、茶菓子などを入れるための鉢。

朝日遺跡: 清須市から名古屋市西区にかけて所在する弥生時代の東海地方最大級の集落遺跡である。

鈴鹿市考古博物館の学芸員の方が遺物の借用に来ました

調査研究課の岡田です。

1月12日(金曜日)に鈴鹿市考古博物館の学芸員の方が遺物の借用に来ました。今回借用された遺物は「小さくてかわいいもの」ばかりです。「小さくてかわいいもの」とは陶製の硯(すずり)や水滴(すいてき)で、今でいう書道の道具です。水滴には鳥の形など動物をかたどったをしたものもあります。

今回借用された遺物は1月20日(土曜日)から3月4日(日曜日)まで企画展「焼きものの硯 石の硯」で展示されています。是非鈴鹿市考古博物館に足をお運びください。



借用する遺物を専用の箱に梱包して搬出します。

水滴: 硯に水をたすための小型の容器。

公益財団法人 岡田文化財団助成事業

企画展
焼きものの硯 石の硯
出土品からみる硯の歴史

石硯 鈴鹿市内出土
陶硯 鈴鹿市内出土

会期：平成30年1月20日(土)～3月4日(日)

- 開館時間：9時～17時(ただし入館は16時30分まで)
- 休館日：毎週月曜日・第3火曜日・祝休日の翌日
ただし2月12日は開館
- 観覧料(企画展・常設展共通)
一般・学生 200円
小中学生 100円
※団体(20名以上)は各50円引き
※未就学児・70歳以上の方・障がい者手帳等をお持ちの方とその付き添いの方1名は無料
- 関連講演会 日時：平成30年2月17日(土) 14時～
「焼きものから石へ 一硯の歴史」
講師：河北秀実氏(元三重県埋蔵文化財センター所長)
※当日受付・聴講無料

鈴鹿市考古博物館
〒513-0013 三重県鈴鹿市岡田219-224
TEL 059-374-1994 FAX 059-374-0986
URL <http://www.educity.suzuka.nie.go.jp/museum/>

名古屋市博物館の学芸員の方が遺物の写真撮影に来ました

調査研究課の岡田です。

名古屋市博物館の学芸員の方が当館の遺物の写真を撮影に来ました。撮影したのは、松崎(まつざき)遺跡(東海市)の製塩土器、釣針(つりばり)、貝殻などの遺物です。名古屋市博物館は今年の夏に尾張、知多の

海の文化史をテーマにした特別展を企画しています。今回撮影された映像はその図録などに使用されるそうです。

特別展の実施時期などはこれから発表されます。是非名古屋市博物館に足を運んでいただきたいと思いません。



左:本格的なセットを組み撮影の準備をしていきます。

右:遺物のレイアウトを決め、遺物を並べていきます。製塩土器の回りに金属器を並べてみているところです。

松崎遺跡:古墳時代から平安時代にかけての、知多半島の製塩遺跡として注目されている。また古墳時代後期から平

安時代後期までの各時期の貝塚(層)が確認され、土器、鉄器、人骨、貝類・獣・魚の骨などが出土している。

製塩土器:海水を煮つめて塩の結晶を取り出すための素焼きの土器のこと。コップ状の器に脚や棒状のものを付けた

ものが、知多半島や渥美半島で使われていた。

愛知学院大学博物館学芸員課程履修生が施設見学に来ました。

調査研究課の岡田です。

12月26日(火曜日)に愛知学院大学博物館学芸員課程履修生が施設見学のため来館しました。学芸員の資格取得を志望する学生ばかりということで、出土品の保存管理・収蔵の仕方に力点を入れて説明したところ関心が強く、しっかりメモを取りながら話を聴いていました。その後、収蔵庫に移動し、出土遺物の保管・収蔵の様子を見てもらいました。

見学が終わった後、実際に弥生土器を手にとってもらい実物を実感してもらいました。

解散後、資料閲覧管理閲覧室の展示遺物の解説を行ったところ、多くの学生が残り展示している遺物を興味深く見ていました。また図書室で文献を閲覧していった学生もいました。

今回の施設見学にはかつて高校生の時に「高校生のための考古学サマーセミナー」に参加して再び来館してくれた学生もいました。今日来館してくれた学生たちも大学の卒業論文作成などで当センターを活用してくれることを職員一同望んでいます。



上左: 出土品の保存管理・収蔵の仕方の説明

上右: 収蔵庫を見て土器や石器の収蔵の様子を見学しています

下左: 水漬けされた木製品を見学しています

下右: 実物の出土遺物に触れてみます

中京大学で出前講義を行いました。

12月20日(水曜日)、中京大学で考古学概論を受講する26名の学生を対象に出前講義を行いました。

まずはどうして発掘調査を行わなければならないかを解説した後に、愛知県の発掘調査に関わる**愛知県教育委員会、愛知県埋蔵文化財調査センター、公益財団法人愛知県埋蔵文化財センター**の関係と各々の役割を説明しました。受講生からは、こうした仕事が存在したことを初めて知ったり、遺跡が発掘調査で壊されることについて「もったいない」との声も聞かれましたが、大方は大変な仕事でやりがいがあるとの意見でした。

次に**大学周辺の遺跡について説明しました**。鎌倉時代には焼物を焼く窯が多く周辺に存在したことを話すと、ビルが並び立つ現在の八事周辺では想像がつかないようで、受講生は一様に驚いていました。

最後に**朝日(あさひ)遺跡と清洲城下町(きよすじょうかまち)遺跡から出土した土器や陶器に触れてもらいました**。事前に円窓付土器(まるまどつきどき)の用途について考える課題が出されており、受講生は実物を見てお互い、その使用方法について熱く語り合っていました。その他、清洲城下町遺跡で出土した魚、猿、鳥等の形をした水滴(すいてき)については、そのユニークな形から多くの受講生が関心を示していました。



講義風景



出土遺物に触れる その1



出土遺物に触れるその2

朝日(あさひ)遺跡: 東海地方最大級の弥生時代の集落遺跡。清須市から名古屋市にかけて所在する。

清洲城下町(きよすじょうかまち)遺跡: 清須市に所在。中世から江戸時代を中心とした時代の遺跡。清須城を核として、その城下町が遺跡のメインとなる。

円窓付土器(まるまどつきどき): 主に朝日遺跡を中心とした弥生時代の遺跡から出土する、この地区特有の壺形土器。胴部に焼成前から丸い穴があげられている。

水滴(すいてき): 硯(すずり)に水をたすための器。

当センターでは学校等への出前授業・講義を実施しております。ご希望の組織の責任者の方は下記に連絡をお願いします。受付は年末年始を除く平日の午前9時から午後5時までです。

愛知県埋蔵文化財調査センター 調査研究課 担当:佐藤・鶴飼

連絡先 電話0567-67-4164

名古屋女子大学高等学校で文化講座を行いました。

12月16日(土曜日)、名古屋女子大学高等学校で文化講座を行いました。講座には名古屋女子大学高等学校の5年生、4クラス85名が参加しました。

講師の紹介の後に、**学校周辺の遺跡の紹介**を行いました。学校の周りには多くの遺跡があり古い時代から栄えていて、学校がある辺り(あたり)も遺跡があることを聴いて多くの生徒が驚いていました。

次に実際に**遺跡から出土した土器や陶器などに触れてもらいました**。今回、用意したのは主に**朝日(あさひ)遺跡と清洲城下町(きよすじょうかまち)遺跡から出土した土器と陶器等**です。生徒は朝日遺跡出土の赤彩(せきさい)土器の鮮やか赤色に見入ったり、手に持つことで土器の重量感を体感していました。また清洲城下町遺跡出土の猿や魚などの動物の形をした水滴(すいてき)を手にしながら、何に使ったのかを友達同士で言い合っていました。生徒は目を輝かせて出土遺物に触れて、時代を肌で感じているように思えました。

最後は**拓本体験**です。朝日遺跡から出土した土器を使い、文様を写しとります。拓本の取り方を職員から聞いた後、各自でチャレンジです。苦勞していましたが、なかなか上手に仕上げていました。出来上がった拓本は透明なフィルムに台紙と一緒に挟み葉(しおり)に加工します。出来上がった葉を各自、自慢気に見せ合っていました。



出土遺物に触れる その1



出土遺物に触れる その2